



立川だより

東京都立立川学園
校長 市川 裕二
東京都立川市栄町1-15-7
電話 042-523-1358



デフリンピック開催



11月15日（土）から12日間、東京2025デフリンピックが開催されました。

東京2025デフリンピックのホームページには、デフリンピックについて、以下のように記載されています。

「デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ（Deaf）とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」なのです。

国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会です。第1回は、1924年にフランスのパリで開催されました。東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴です。デフリンピックには、①「補聴器」などを外した状態で、きこえる一番小さな音が55dB（デシベル）を超えており、②各国の「ろう者スポーツ協会」に登録されている選手で、記録・出場条件を満たしている人が参加できます。

タッチ部門だけでなく、学校全体で大きく関わった世界大会でした。本校でも、タッチ部門の幼稚部から高等部専攻科の児童・生徒が、陸上競技等の大会会場に行き、選手の応援をしました。また、女子バレーボールの決勝日には、本校バレーボール部及び高等部運動部の生徒を中心に、選手の入場をエスコートする役割を担ったほか、陸上競技では、中学部・高等部の代表生徒がトレイベアラーを務め、バドミントンでは、小学部5・6年生の児童がエスコートキッズを務めました。

この原稿を書いている11月17日には、前日の16日に女子柔道52キロ級で、今大会の日本勢メダル第1号である銅メダルを岸野選手が獲得したというニュースが入りました。今回のデフリンピックでは、本校でも選手に向けて熱い声援を送り、多くの競技で日本人選手が活躍されました。

さて、11月17日から校内では、子供も大人もインフルエンザに罹患したという報告が多く出てきました。今年は例年よりも、インフルエンザの流行が早いとニュースで報道されていましたが、本校においても、その通りになりそうです。インフルエンザの感染を防ぐポイントは、「手洗い」「マスク着用」「咳（せき）エチケット」と言われています。御家庭でも、御注意いただけますと幸いです。なお、インフルエンザに罹患した場合は、出席停止になりますので、担任等へ御相談いただきますようお願いいたします。